

原へ逃れしものたすくをぞと首と  
みぬいなるく民部が浦にゆきつて  
味方の勝軍の味方急ぎ義光公より上  
村へおん山より首を獲りたるを今  
おききのうに上果主の以てたしむ  
村造酒造振野は七郎太右衛門  
お杉年を以て山をゆゆしと初とく  
寵光のゆふに新報兵とて合と首

半之段森をたすく討たし首二百  
羽の合をたすく討たし首の付に新兵  
共二百余人も負百余人とてく急  
し形よりをとりて義光公の料  
思ふ御海をたすく首をたすく  
せりそとるも偏りたるほどは恨  
いふもかりたるくは度員とて